

# DOC+S-1

対象	胃癌 pStage IIIにおける術後補助化学療法				
投与順	抗癌剤名	投与量	手技	投与時間・速度	投与日(d1,d8等)
1	ドセタキセル	40mg/m <sup>2</sup>	div	1hr	d 1
2	S-1	80mg/m <sup>2</sup>	p.o.	1日2回 朝・夕食後	day 1夕-day 15朝
1コース期間	3週間				
総コース数	6コース				
投与開始基準	白血球数:施設基準値下限あるいは4000/mm <sup>3</sup> 以上 12000/mm <sup>3</sup> 以下 好中球数 $\geq$ 1500/mm <sup>3</sup> 血小板数 $\geq$ 10万/mm <sup>3</sup> ヘモグロビン $\geq$ 9.0g/dL 血中ビリルビン $\leq$ 1.5mg/dL AST,ALT:施設基準値上限の2.5倍以下(肝転移がある場合、施設基準値上限の5倍以下) 血清クレアチニン:施設基準値の1.2倍以下 Ccr $\geq$ 60(60未満の場合はS-1を減量して投与) 消化器症状:Grade 1以下 非血液毒性:担当医師が投与不適と判断するGrade 2以上の非血液毒性がない				
減量規定・中止基準	<b>【S-1、ドセタキセルの減量基準】</b> ① 好中球数 $<$ 500/mm <sup>3</sup> :1段階減量 ② Grade 3の発熱性好中球減少症:1段階減量 ③ 血小板 $<$ 5万/mm <sup>3</sup> :1段階減量 ④ 血清クレアチニン $>$ 1.2mg/dL:1段階減量 ⑤ Ccr $<$ 60でS-1減量。30未満で投与不可。 ⑥ Grade 3以上の消化器症状(下痢、口腔粘膜炎、悪心、嘔吐、食思不振):1段階減量 ⑦ Grade 3以上のその他の非血液毒性:1段階減量  <b>【ドセタキセルの減量】</b> 40mg/m <sup>2</sup> →35mg/m <sup>2</sup> →30mg/m <sup>2</sup>				
2コース目以降の投与開始基準	白血球数 $\geq$ 1000mm <sup>3</sup> 血小板数 $\geq$ 7.5万/mm <sup>3</sup> AST,ALT:施設基準値上限の2.5倍以下(肝転移がある場合、施設基準値上限の5倍以下) 血中ビリルビン $\leq$ 1.5mg/dL 血清クレアチニン:施設基準値の1.2倍以下 Ccr $\geq$ 60(60未満の場合はS-1を減量して投与) 消化器症状:Grade 1以下 非血液毒性:担当医師が投与不適と判断するGrade 2以上の非血液毒性がない				
コース間での休薬の規定	なし				
投与量の増量規定	なし				
注意すべき副作用	白血球減少、好中球減少、食欲不振、しびれ				

# DOC+S-1

1コース期間 21日  
 投与所要時間 1時間30分

ルート	Rp	薬剤名	標準投与量	投与方法	投与速度	day1
主管	1	カイトリルバッグ 100mL デカドロン 6.6mg		div	15min	○
	2	5%ブドウ糖液 250mL ドセタキセル【 】mg	40 mg/m <sup>2</sup>	div	1hr	○
	3	生食 50mL		div	15min	○
内服薬		TS-1	80 mg/m <sup>2</sup>	p.o.	day1夕-day15朝	

## コメント

術後補助化学療法として投与  
 2-7コース目にDS療法として投与

### 【S-1 投与量】

体表面積	初回基準量(テガフル相当量)
1.25m <sup>2</sup> 未満	40mg/回 (80mg/日)
1.25m <sup>2</sup> 以上~1.5m <sup>2</sup> 未満	50mg/回 (100mg/日)
1.5m <sup>2</sup> 以上	60mg/回 (120mg/日)

- 1コース目 :S-1のみを 80mg/m<sup>2</sup> 2週投薬1週休薬で投与(DOC投与なし)
- 2-7コース目 :day1にDOC 40mg/m<sup>2</sup>、S-1を 2週投薬1週休薬で投与(DOC、S-1両方投与)
- 8コース目以降 :S-1のみを 80mg/m<sup>2</sup> 4週投薬2週休薬(DOC投与なし)(手術日から最長1年間継続)

Reference: